

長岡京市議会
議会改革特別委員会

調査研究報告書
《オンライン委員会について》

令和7年8月19日

1. 調査研究項目及び手法

(1) 調査研究項目

オンライン委員会について

(2) 調査研究項目の具体的内容

長岡京市議会では、令和3年10月、議会改革特別委員会が立ち上げられ、新型コロナウイルス感染症の拡大を経験する中、オンライン委員会の必要性やその手法について検討を行うこととされた。これを受け、長岡京市議会におけるオンライン委員会の実施について、他市の事例研究や、本市における実施条件、また実施手法について論議するため、調査・研究を進めたものである。

2. 委員名簿

議会改革特別委員会

委 員 長	中小路 貴司
副 委 員 長	大 伴 墨
委 員	中 村 亮 太
委 員	川 口 良 江
委 員	福 島 和 人
委 員	広 垣 栄 治
委 員	三 木 常 照
委 員	上 村 真 造

3. 調査研究の実施経過（オンライン委員会の協議のみ抜粋）

1	令和6年 6月21日	・オンライン委員会について (他市の状況等について)
2	令和6年 8月28日	・オンライン委員会について (導入の是非、出席要件等に関し意見交換)
3	令和6年 9月25日	・オンライン委員会について (開催要件について)
4	令和6年12月 5日	・オンライン委員会について (環境整備に関する意見交換)
5	令和7年 3月 7日	・オンライン委員会について (環境整備について)

6	令和7年 6月20日	・オンライン委員会について (報告書(案)について)
7	令和7年 8月19日	・オンライン委員会について (報告書(案)について)

4. 調査研究のまとめ

令和6年6月から計7回にわたって会議を開催し、長岡京市議会におけるオンライン委員会の実施について意見交換を重ねた。

その結果、長岡京市議会においても、大規模災害の発生やコロナ禍で経験したような感染症拡大などの事態に備え、オンラインを用いた委員会への出席が可能となるよう、各種整備を進めていくことが望ましいとの結論で全会一致したところである。

本委員会において、一定、意見がまとまったものは以下のとおり。

- ・ オンライン会議の実施は、感染症及び自然災害等、参集することが困難と認められる場合に限る。
- ・ オンライン会議は、参集と併用して実施するものとし（いわゆるハイブリッド型）、正副委員長のいずれかは、委員会室等へ参集するものとする。
- ・ 表決を含むすべての議事をオンライン委員会の対象とする。なお、オンライン出席者の表決方法は、挙手によるものとする。
- ・ 通信環境に不具合が発生した場合は、欠席とみなす。
- ・ 必要な準備物（インターネット環境・端末・カメラ及びマイク・ヘッドホン（イヤホン）など）を確認。
- ・ 市民に対する議事の公開手法について、現在の機材で対応可能な方法を確認。
- ・ オンライン委員会の原則的な開催手順や、オンライン出席のために必要な手続きについて確認。
- ・ オンライン出席者の本人確認の方法や、情報セキュリティの担保について、災害等も想定される中、原則的な対応を確認。

5. 会議の中で出た意見（抜粋）

・ オンライン委員会については、コロナ禍のような感染症拡大時や災害発生時に備え、環境を整えていく必要がある。
・ オンライン委員会の開催要件は、災害発生時や感染症拡大時に限定すべきである。 議員である以上、会議に出席するのが大前提であるため、介護、育児、疾病によるオンライン出席については反対である。真剣な議論の中で、集中できないことや席を外すなども想定される。 実際の運用面を考えると、委員長に負担なく実施していくことが必要ではないか。
・ オンライン委員会の開催要件については、「委員長が認める時」という規定も必要ではないか。 何が起こるか分からないような時代になってきている。これから先、災害や感染症の範囲では収まりきらないようなことも起こりうると考える。委員長の判断で対応できるような柔軟性をもたせることが必要ではないか。
・ いざ、災害発生や感染症拡大が起こったときに、うまく運営できるのか。もっと手前の段階で、避難訓練のような形で、オンラインでの訓練を実施しておくことも大切なのではないか。